

十勝毎日新聞 十勝農業記事ハイライト

生産・取扱高

生乳生産 10年連続増 十勝が全道首位 20年度126万トン
規模拡大、飼料の質も後押し

2021年4月4日

ホクレンが集計する2020年度の十勝管内の生乳受託量が前年度比3.2%増の126万8,855トンとなり、10年連続で過去最高を更新した。酪農家の規模拡大や飼料の質の良さなどが数字を後押しし、道内の地域別でも十勝がトップだった。

牛乳や乳製品の原料となる生乳は、道内の大半をホクレンが集荷。20年度は全道で400万4,827トン（2%増）受託し、うち十勝は31.7%を占めて支所別で最多となっている。

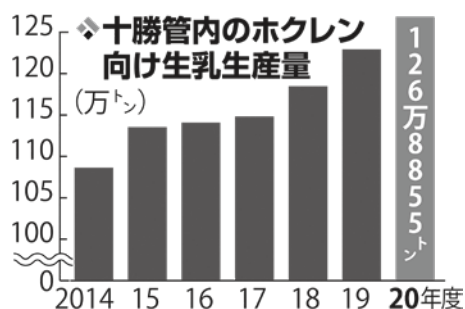
生乳生産が増加する大きな要因の一つが規模拡大の進行。十勝以上に大きな割合で全国的な離農が続く中、生乳の安定的な確保の必要性が高まっている。近年の乳価引き上げも規模拡大を後押し、戸数が減る中、管内全体の頭数は増えている。十勝の酪農家1戸当たりの経産牛（子牛を産んだ母牛）の頭数は09年の81頭から19年は116頭まで拡大した。

牛自体の生産能力も向上し、1頭当たりの乳量も増加。ホクレン帯広支所は「規模拡大がけん引したほか、飼料の質も良かった」としている。

管内J Aのうち最も生産量が多かったのはJ A十勝清

水町で、前年度比1.3%増の14万5,899トン。J A上士幌町（12万6,645トン、5.9%増）、J A鹿追町（11万7,158トン、0.8%増）も多かった。

全道の生乳受託量は400万4,827トン。支所別では、中標津の83万2,236トン（1.6%増）、北見の60万3,134トン（4.3%増）が十勝に続いた。



十勝9品目で全道一 枝豆96% ナガイモ88%
シェア 19年野菜収穫量

2021年4月18日

2019年に道内で収穫された主要野菜・31品目のうち、十勝管内は枝豆やナガイモなどの計9品目が、道内14総合振興局・振興局の中で首位の収穫量となった。夏場の低温・日照不足の影響も懸念されたが、ナガイモや枝豆などは、18年比で収穫量も伸びた。

十勝の野菜で道内シェアが最も高かったのは枝豆で、シェア率は96.2%。収穫量は前年比10.7%減の4,273.4トンだった。J A中札内村の特産で海外にも輸出されている。

ナガイモのシェア率は88.7%。J A帯広かわにしなど管内9 J Aで生産する「十勝川西長いも」を中心に、台湾や米国などへの輸出も軌道に乗っている。19年産から従来品種より直径の太い「とかち太郎」への切り替えが進んだ。収穫量は5.9%増の4万9,056トン。

J Aめむろが力を入れるサヤインゲンのシェア率は80.3%。収穫量は2,638.8トンで前年の2.02倍となった。

ニンジンのシェア率は31.7%で、3年連続の首位。ただ収穫量は5万1,790.5トンと、前年より微減となった。スイートコーンの収穫量は3万4,336.2トンで7.8%減、シェア率は4割台を維持した。

作付面積で1万ヘクタールを超えたのは、十勝とオホーツク（1万186.7ヘクタール）の2地域のみとなっている。

◆十勝管内の収穫量が「全道シェアトップ」となった主要野菜

品目	収穫量 (トン)	道内シェア (%)
枝 豆	4273.4	96.2
ナガイモ	4万9056.0	88.7
サヤインゲン	2638.8	80.3
ゴ ボ ウ	6200.5	60.8
スイートコン	3万4336.2	44.9
キャベツ	1万8767.0	39.0
ニンジン	5万1790.5	31.7
ダイコン	3万5861.2	31.6
ニンニク	190.4	31.4

※道農政部の2019年産「主要野菜作付実態調査」から算出